教科（　国語　）　科目（　国語総合・古典編　）　単 位 数（　３　）

類型（ 共通 ・　文　・　理　）　履修規定（ 必修 ・　選択　）

年間目標	教　科　書　・　副　教　材　　等
1　古典分野の文章を扱う中で、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2　思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。 3　言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	1　教科書「高等学校　改訂版　新訂国語総合　古典編」第一学習社 2　その他　古典文法・漢文句法 国語便覧・文学史 古語辞典・漢和辞典

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
1学期	4	古文ガイダンス　（1） 古文編　古文入門 児のそら寝　（4） 絵仏師良秀　（5） ◎歴史低仮名遣い ◎動詞の活用	・古文に関心を寄せる。 ・繰り返し読んで、古文特有の言葉や表現に親しむ。 ・内容の面白さを理解する。	・予習の仕方やノートの取り方、辞書の活用法、音読の習慣が身に付いたか。 ・文語と口語の違いがつかめたか。 ・内容のまとまりを押さえて、的確に音読できたか。【関心・意欲・態度】 ・歴史的仮名遣いを正しく理解できたか。【知識・理解】
	5	漢文ガイダンス　（1） 漢文編　漢文入門 訓読に親しむ一　（4） 訓読に親しむ二　（4） ◎訓読の基本 ◎再読文字と助字	・漢文に関心を寄せる。 ・短い文を読んで訓点を理解し、正しく音読する。 ・再読文字や助字、置き字の意味や用法を理解する。	・予習の仕方やノートの取り方、辞書の活用法、音読の習慣が身に付いたか。 ・送り仮名や返り点の決まりを理解し、正しく音読することができたか。【知識・理解】 ・再読文字や助字、置き字の意味や用法を理解し、正しく書き下し文にできたか。 ○連休中の課題提出　○１学期中間考査
	6	漢文編　故事成語　（8） 漁夫之利 狐借虎威 ◎否定・疑問・使役 古文編　物語　（１２） 『伊勢物語』 芥川 筒井筒 ◎形容詞・形容動詞の活用 漢文編　漢詩　（4） 江南春 送元二使安西… ◎漢詩の決まり	・訓読に慣れる。 ・故事を読み、漢文の面白さを知る。 ・古文の文体に慣れ、古人のものの見方や生き方に触れる。 ・登場人物の心情と行動を正しく読み取る。 ・歌物語の特色を知る。 ・漢詩の形式や語法を知る。 ・詩に表れた唐代の人々の、ものの感じ方や考え方について理解を深める。	・故事成語に関心を持って読み、それぞれの話の面白さが分かったか。【読む能力】 ・訓読の基本を理解し、正確に音読できたか。【関心・意欲・態度】 ・それぞれの話の展開と面白さが理解できたか。【読む能力】 ・用言の活用が正確に理解できたか。 ・王朝時代の人々の生き方を鑑賞することができたか。【書く能力】 ・表現上の工夫に即して、各詩に込められた主題や心情を味わうことができたか。【読む能力】 ・詩の形式や押韻等について理解できたか。【知識・理解】
	7	（１学期末考査後） ◎動詞・形容詞・形容動詞の復習		○授業ノート提出　○課題提出 ○１学期末考査
夏休み		◎助動詞の学習と演習	・助動詞を体系的に学習する。	・助動詞の活用の仕方や用法が理解できたか。

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
2学期	8 9 10	古文編　日記　（8） 『土佐日記』 門出 帰京 ◎副詞・連体詞・感動詞・接続詞	・日記文学の特徴を知る。 ・古語や文法を正確に理解して口語訳する。 ・日記に表れた心情を理解する。	○課題テスト・課題提出 ・当時の人々にとって、「日記」がどのようなものであったかを理解できたか。【関心・意欲・態度】 ・亡くなった子に対する思いを考えることができたか。【読む能力】
		漢文編　史伝　（１２） 先従隗始 臥薪嘗胆 ◎詠嘆・受身・抑揚	・訓読に慣れる。 ・ストーリーの展開を把握し、その過程で重要な句法等を理解する。	・漢字の読み、訓読の決まりに注意して適切に音読できたか。 ・それぞれの話の展開と面白さが理解できたか。【読む能力】 ○課題提出　○２学期中間考査
	11 12	古文編　随筆 『徒然草』　（１３） ある人、弓射る… 花は盛りに… 九月二十日のころ ◎主要な助詞	・表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。 ・随筆を読んで、人間や社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。	・重要な古語や助詞・助動詞の意味を理解し、文脈に即して口語訳できたか。【読む能力】 ・基本的な助詞の意味用法について理解できたか。【知識・理解】
		漢文編　思想 論語　（7） 孟子　（5） ◎限定・願望・仮定	・巧みな比喩とその効用を味わいながら筆者の意図を把握する。 ・中国の思想を代表する儒家思想の概略をとらえる。	・意味のまとまりに注意して朗読できたか。 ・語句の意味や助字、句法等に注意して文意を理解できたか。【読む能力】
		古文編　和歌　（5） 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 ◎和歌の修辞法	・韻律に注意して適切に音読する。 ・和歌の表現技法を確認する。 ・和歌に表れた日本人のものの見方や感じ方の伝統を知る。	・句切れや七五調に注意して音読できたか。 ・和歌の表現に即して心情が読み取れたか。 ・修辞法が理解できたか。【知識・理解】 ○授業ノート提出　○課題提出 ○２学期末考査
3学期	1 2 3	古文編　物語 『伊勢物語』　（5） あづさ弓 『竹取物語』 かぐや姫の嘆き ◎特別な敬語表現	・登場人物の心情と行動を正しく読み取り、平安時代の人々のものの見方や感じ方を知る。 ・伝奇物語の楽しさを味わう。	○課題テスト・課題提出 ・登場人物の心情を的確にとらえることができたか。【読む能力】 ・敬語表現の概要について理解できたか。【知識・理解】
		漢文編　種々の文章（7） 『漁父辞』 『桃花源記』 ◎累加・限定・選択	・対句表現に注意しながら、文章の内容を正確に読み取る。 ・陶潜の憧れた社会がどのようなものであったか理解する。	・内容を正確に読み取ることができたか。 ・古代中国人の考え方や生き方について理解を深められたか。【読む能力】 ○課題提出・学年末考査
評価の方法	1　各学期の成績の評価は、定期考査と観点別評価を総合して（提出物・小テスト含む）行う。 2　観点別評価は、記述の確認・行動の観察などによって行う。 3　「国語総合」の評価は、現代文分野と古典分野（古文・漢文）とに分けて行うが、学期成績・学年成績は「国語総合」として行う。			

○　国語総合（古文・漢文）の学習法

1　基本的な心構え

古文は、私たちの祖先が作り出した貴重な文化的遺産であり、当時の人々の考え方・生き方が込められている。また、漢文は、長く日本人の教養の中心として生き続け、我が国の文化の形成に大きな役割を果たしてきた。私たちはそこに、古人が何を求め何を恐れ何を愛し何を信じようとしたかを見ることができる。古典学習は、古人に深く学びつつ、温故知新によって、現代に生きる私たちが、いかに生きるかを問い考えることでもある。

2　学習の方法

⑴　予習について（予習の 30 分は復習の２時間の効果）

ア　大切な音読

（ア）すらすらと読めるまで、繰り返して読む。

（イ）読みながらおおまかな意味をつかみ、分からない所をチェックしておく。

イ　ノートの作成

＜古文＞

（ア）原文をノートの見開きの上のページに３行おきに写す。たっぷりスペースを取る。

（イ）写した本文の隣に、本文にそって鉛筆で自分の力で口語訳をしてみる。本文の左には区切り品詞分解などを書くとよい。

（ウ）下のページの上三分の一に新出単語・文法事項を調べて記入する。（単語は古語辞典の主な意味をすべて列挙し、本文にあてはまる意味に〇印を付けておく。）

（エ）教科書末の“学習の手引き”を解答しておく。また、国語便覧で作品について調べる。

（オ）文法的に大事だと思うところ・分からないところを鉛筆で本文の右側にチェックしておく。

＜漢文＞

（ア）見開きの上のページ上半分に、本文を３行おきに写す。（ただし、返り点・送り仮名は書かない。）（なるべくたっぷりとスペースを取る。）

（イ）その隣の行に、本文にそって書き下し文を鉛筆で書く。

（ウ）その隣の行、書き下し文にそって口語訳を書く。

（エ）下のページ上三分の一に、分からない語句を漢和辞典で調べ、また国語便覧で作品について調べて書く。また、教科書末の“学習の手引き”を解答する。

（オ）句法や分からない所を、鉛筆で本文の右側にチェックしておく。

⑵　授業について

ア　予習した古文単語・文法的事項・句形・重要語等を確認し、不十分な所を補う。

イ　分からなかった所は特に注意してノートに書く。疑問に思うことは積極的に質問することが大切である。予習と色を変えて赤色で書くとよい。

ウ　板書以外で大切だと思うこともノートに書く。特に文章の中心となる所はしっかりとノートをとること。文法書・辞書・国語便覧等を授業中もどんどん活用する。

⑶　復習について

ア　教科書で**音読**し、口語訳する。行き詰まったらノートで確認する。何度も音読し、暗誦する。

イ　予習での疑問点が解決できたか確認する。要旨・主題・感想等を文章で書いてみるのもよい。

ウ　古文単語・文法的事項・句形・重要語等を記憶する。

⑷　その他

ア　平素から読書することは大切である。初学者向きの入門書や、『今昔物語集』・『竹取物語』・『十八史略（対訳付きの本)』や、また古典を翻案した現代作家の作品等を読んでみるとよい。田辺聖子、大塚ひかり、司馬遼太郎、宮城谷昌光などの著作がある。

イ　定期考査・模擬試験が終わった後、間違った所を訂正し、二度と同じ誤りを繰り返さないようにする。自分の弱い所を自己診断し、また、問題は必ずファイルしておく。